

本気の決意で成果が変わる

私たちは、はなから目標達成についてあきらめてはいないでしようか。自分自身があきらめていたら、どんなに良いやり方を選んでも目標を達成することはできません。また、軽い気持ちで「できたらいいな」「やっつかな」という程度の思いでは、目標を達成することはできません。「やろう！」と本気で決意しないことは決して実現しないのです。そのこと

を体験してもらう実習が「決意の実習」です。

この「決意の実習」を行うに当たって、準備するものは椅子一つだけです。この椅子に座っている人を、他の4人が指だけで持ち上げるのです。持ち上げる人は、指を両手で組んで人差し指だけを突き出す形にします。4人は組んだ両手の人差し指をそれぞれ椅子に座っている人の両脇の下と、ひざの下に

入れて持ち上げるのです。最初は何の説明もしないで、持ち上がるかどうかをやってみてもらいます。通常は持ち上がりません。持ち上がったとしても少し浮く程度です。

次に持ち上げる4人の気持ちを一つにしていただきます。リーダーを決めて、持ち上げる人の頭に手をかざして、全員に「持ち上げる」と強く決意してもらいます。そのために、「持ち上げるぞ！」と全員が大きな声を出します。気合を入れて再度トライすると、軽々と指だけで持ち上がります。やると決意することで結果が違ってくるのが分かります。

一人ひとりに、この実習の体

験の感想を聞くと効果が大きくなります。「最初は全然できないと思った」「ムダなことをやっていると思っていた」「いつも最初からあきらめていた」「自分がいた」などの感想が挙がってきます。

この実習は、当社では「習慣力を強化する研修」を振り返る際に実施しています。振り返りの発表では、「1日に3人の部下を褒めることができない」「1日に10人以上『ありがとう』を言うことができない」「毎日の笑顔実習ができない」など、できないことのオンパレードになります。しかし、この実習を体験すると、「できないのではなく、自分が本気でやっていない」と気付くことができます。

最後に私は、この言葉で研修を締め付けています。

「やってやれないことはない。やらずにできることはない。」



ふじさき・しろう

(株)パートナーズリンク代表取締役社長。大阪市立大学経済学部卒業後、大手流通チェーン企業に入社。準大手パチンコホール企業で総括SV、営業企画室長、経営計画部長を経て独立。人事コンサルタントとして社員教育・リスク回避型就業規則作成・フレッド作成コンサルティング、評価制度の構築などを行っている。